

元気グループ紹介シリーズ みんなおいでよ プレーパーク!!



●「プレーパーク」って何?

活動の詳細はこちら▶

プレーパークとは、「危ないからダメ!」ではなく、子どもたちの自由な発想で子どもたちがつくり出す遊び場です。親や地域の人たちは見守り中心。子どもたちがやりたいことができ、遊びを通して自分自身を育てていける場所です。

乳幼児親子対象の子育て支援事業だけではなく、学童期以降の子どもたちにも地域のなかで見守られながら育つ場所、遊ぶ場所が必要だとの想いから「緑区子育て支援ネットワーク」が主催となって「プレーパーク」を始めました。初めに大高地区、次に鳴子地区、鳴海東部地区、片平地区と広めて、今年で12年になります。都市公園内での焚火の許可や公園使用手続等は区役所が担っています。また開催日は小学校の予定表や町内会の回覧板でPRし、地域の方のご理解とご協力をいただいています。

現在緑区内では児童館主催の1カ所を含め、5カ所のプレーパークを開催し、徳重管内には「なるこプレーパーク」と「みずひろプレーパーク」があります。

なるこプレーパーク

毎月第2日曜日
午前10時～午後4時

最高気温が5度の寒い日に鳴子中央公園を訪ね、プレーリーダーの塚本さん(南児童館長)にお話をうかがいました。

運営上大切にしていることは、なるべく大人が子どもに口を出さないことです。親子で来ることもあると、親が子どもに口を出してしまうことも当然ありますが、「口を出すな」と直接注意するのではなく、「子どもに任せることで子ども自身が成長していく」と理解してもらえよう言葉がけを心掛けています。

取材日は小学生から大学生まで20人ほどいました。小学生のときから来ていて高校生になっても来ている子どももいました。通常30～40名ほどの参加があるそうです。当日は豚汁とチョコレート作りを行っていました。豚汁はテントの中で野菜をきざんでおり、チョコレートはカカオ豆を炒って皮をむいていました。そのあと、すって砂糖を加えチョコレートにするのですが、寒い日だったので固まってしまわないようにいろいろと工夫していました。食材費は「子育て支援ネットワーク」が準備してくれるそうです。



カカオ豆をすりつぶしている様子



豚汁、調理中!

プレーパークについて、「長年開催することで中高生の参加も増えてきた。個々の成長を長期間にわたって見届けることができるのが嬉しい」と塚本さんは話されていました。

取材日2月8日(日)

一緒に
楽しみましょう!

予約は不要です!

皆様のご参加を
お待ちしております!



●取材の感想

今回の取材を通して、初めてプレーパーク事業を知りました。

子どもたちは、まるでキャンプをしているかのように火をおこして、チョコレートやポップコーンを作っていました。慣れた手つきで作業をしていたので、とてもびっくりしました。今の子どもたちは火に接する機会がほとんどないと思われるので、なかなかできない体験となっています。また、児童館と区役所との協働がうまく機能していて素晴らしいと思いました。多くの子どもたちがプレーパークに参加して、自由にのびのび遊んで楽しんで欲しいです。

みずひろプレーパーク

毎月第3日曜日
午前10時～午後4時

晴天に恵まれた暖かい一日、水広公園を訪ね、プレーリーダーの伊藤さん(緑児童館長)にお話をうかがいました。水広公園は広くて自然豊かな公園です。ピオトープもあり、ザリガニやカエルなどがいるそうです。

スタッフは伊藤さんとボランティアの男性の2人ですが、常連の親子連れの参加者が積極的に手伝ってくれます。



公園で遊んでいる様子

取材日は小学生から高校生まで50人ほどの子どもが遊んでいました。多いときは150人くらいの参加者があります。遊びは子どもの自主性に任せていて、焚火の火起こしや水汲みなども子どもが行います。取材時はポップコーンを作っていて小さな紙コップにいれて持ってきてくれました。紅茶もいれてくれ、大人におもてなしするのを楽しんでいるようでした。食材は持ち寄りですが、マシュマロやウィンナーなどを用意することもあります。焚火が一番人気の遊びですが、ほかにボール、フラフープ、ベーゴマ、けん玉遊びや縄跳びなどもしています。

「プレーパークには、プログラムがない、年齢制限がない、お金がいらない、常連の参加者と初見の参加者の交流が生まれるなど利点が多いのでたくさんの人に参加して欲しい」と伊藤さんが楽しそうに話してくださいました。

取材日3月15日(日)